



RI 第 2 6 1 0 地区

東となみロータリークラブ会報

2012-2013 年度 No. 2 9

事務局 〒939-1635 富山県南砺市福光 7336-4 福光会館 3F

ふくみつ光房内 TEL 0763-53-1333 F A X 0763-53-1334、

inashorc@athena.ocn.ne.jp

2012-2013 年度 会長 河合耕一、幹事 上田昭二

2012-2013 年度 RI テーマ



「奉仕を通じて 平和を」

(田中作次会長)

例 会 記 録

第 1 6 5 5 回例会

平成 2 5 年 1 月 2 3 日(水) 井波文化センター

1. 点 鐘 会長
2. ソング：四つのテスト
3. 会長の時間：SAKUJI 作戦で東京と南砺市を行き来しておられる方を紹介しようとした。そしたらもうすでに東京の RC 会員になっておられた。帰って来られたら勧誘をと思っていましたが、多忙な仕事に就かれたため住居のある南砺市に帰郷は近々は難しいとか。地区以外の方で推薦のある場合は是非紹介してほしい。SAKUJI 作戦への参加希望は 1 月 1 5 日だが、当 RC への入会は通年なので今後も紹介して欲しい。笹子トンネルの天井崩落事故後、日本中大急ぎでトンネルの点検が始まった。トンネル内の通行を止めて一斉点検はできないので、深夜の交互通行となる。ところが、深夜作業員が見つからない。深夜に金槌でコンコンと打検(だけん)する作業となる。耳さえ聞こえればできる作業。土建屋は作業員探しを進めるが、夜中に作業する方は見つからない。お手当が 1 晩 2 万円出ても、寒いところで 1 週間続けねばならない深夜作業員は居ない。監督指導員も大変。その結果、再び手抜き検査など出ないかと、現場関係者は心配。ロータリーの職業観みたいな精神で不正のないトンネル点検をお願いしたいところ。全国の高速道路で 4 0 本が笹子トンネルと同じ方式という。殆ど 3 0 数年間を経過しているとか。新しいトンネルの方式は、天井に扇

風機を取り付けたもの。ごく最近の形式は横に別のトンネルを掘り、そこを換気孔としている。トンネルを通行するとき、天井を見る習慣がつき、できればトンネルを避けて通りたいと思うようになった、以上。

4. 幹事報告：①ロータリー世界平和フォーラム広島に参加登録について(各テーブル配布)。(昨年 8 月上旬に 4 名参加希望で連絡済み) ②米山奨学会日より、ハイライトよねやま及び 12 月寄付金傾向(各テーブル配布)。③メイクアップ希望者は、他クラブ例会変更を事務局に確認を。④IM が 1 カ月後に迫ってきました。その 3 日後には 3 RC 合同例会があります。宜しくお願いします。
5. 委員会報告：①国際奉仕委員会(高瀬委員長)：2 月の世界理解月間にちなんで、「書き損じ葉書キャンペーンについて」依頼がきた。各クラブ 1 名 200 円を目安に。宜しくお願いします。②IM 実行委員会(高瀬委員長)：締め切りが 1 月末となっている。その頃に文化センターで実行委員会を開催。③小西ガバナー補佐：先般日曜日 5 PM からカナルパークホテルで 2 回目のガバナー補佐会議があった。上半期の反省、SAKUJI 作戦、米山奨学金第 3 分区の成績の良さなどの協議や報告があった。他に地区 R 財団委員会「未来の夢計画」の実施に伴い、補助金制度はこれまでの寄付一辺倒から有効な用途へと変更され、補助金が使えるようになった。2 月 3 日、阿部さんと斉藤会員が

そのセミナーに出席予定。出席は補助金申請時の大前提。ガバナーの話によると、IM の日時はガバナーの予定に合わせたが、その後お孫さんの結婚式が入り欠席となり、ビデオメッセージをもらうこととなった。ガバナー補佐として IM などのお願いで通算 4 回目の RC 訪問。前に新湊中央 RC、昨日は射水 RC、明日は高岡 RC、明後日は新湊 RC、万葉 RC、最終は砺波 RC に行く予定。④出席委員会：本日 20 名中 17 名出席（85.00%）

6. ニコニコBOX(SAA：本日 6 名 6000 円、その他、米山 1 名)

河合会長：3 クラブ合同例会のアトラクション、何かアイデアありましたら、お願いします。

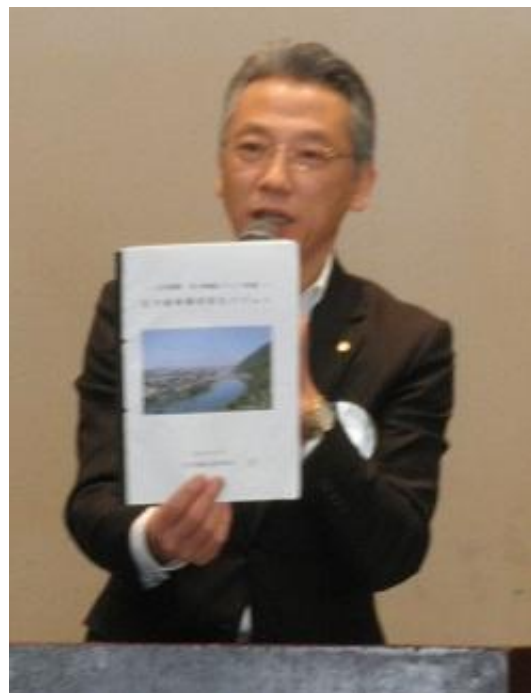
上田幹事：先週誕生祝い頂きました。有難うございました。坂井さんの卓話で庄川の未来像が見えてくるのを楽しみにしています。

坂井会員：先日は新年会失礼しました。ようやく風邪が治りました。本日の卓話よろしく願い致します。

助田会員：南砺市議会だよりが 25 日発刊されます。編集委員の一員として、させて頂きました。

荒木会員：テロによる殺りく、体罰、いじめによる自殺まで、人間の性とはいえ、何とも痛ましい。

中島会員：感染が広がっていましたノロ・ウィルス、ようやく下火となり安心です。次は、インフルエンザ・ウィルスをブロックしなければなりません。



卓話「庄川温泉郷活性化ビジョン」

坂井彦就会員

テーブルに 1 冊、表題名の冊子を置いた。昨年 3 月 7 日卓話で 24 年度末までビジョン作成を予定していると話した。作成したが、実行はこの 4 月から。このビジョンは大学の先生が作成したものでなく、自分達で作成。庄川峡観光協同組合が主管となり、砺波市補助金を得て大学連携（国際大学）を通して作成。国際大の授業の一環。期間は今年の 4、5、6、7 月の毎週火曜日。大学での講義と庄川観光地の実地見学からなり、4 人グループで 9 班、計 36 人の観光実習受講の学生であった。授業ではこれまで八尾が実地見学対象の年もあったとか。われわれの目的は、若い人、外部の方（よそもの）目線で現状を見てもらい庄川観光の可能性を探ること。マスコミからかなりの反響があ

り、チューリップTVの独占取材を受け入れ、各新聞などメディアに掲載された。お蔭で庄川の観光的価値のグレードアップを齎し、当組合の努力も認知された。その分、責任も重大視された。当組合は組織化されて40年。この機会に、一昨年同業的な組合（旅館業と飲食業の組合）から、魚屋、肉屋、酒屋、タクシー、遊覧船、建設関係まで若い方にも入会してもらい組織を強化し、異業種組合へと発展した。その後、行政にこの企画を持ちかけて応援してもらうことが決まった。観光は裾野が広く、交流人口が増えれば庄川地域の商業は活性化される。このことについて当時の上田市長から十分な共感を得た。大学連携も案から結果まで大きな効果があった。学生には各施設訪問、遊覧船試乗、五箇山や城端など周辺の観光地見学、温泉の宿泊実地体験（分宿）を通してメリット、デメリットを発見してもらった。

最終の7月24日に学生より庄川地域活性化案を9通りプレゼンテーションしてもらった。学生のプレゼンを十分尊重して組合員でビジョンを作成。学生のプレゼンには実現不可能案もあったが、可能性のあるものは取り入れた。例えばカメラ女子に一泊二日してもらって、問題提起場所のフォトをコンテストにかける、という案は来年度中の実現の方向で決定済。今回のビジョンは、学生による庄川地域での実地見学に依るところ大である。企画段階でも大きな契機となった。ビジョン作成は組合員の意識向上にも大きく貢献。商売屋は、内実は商売に多忙という現状であったが、学生や大学教師との懇談や実地見学によって、商売屋は自ら意識変革を迫られ、庄川の地域的価値の再発見を自覚した会員も多い。



改革案がたくさん出され、ビジョン作成は大学の先生

にもお世話になったが、組合員自身で取りまとめ作成した。これは大学の先生による初めからの狙いであり、結果的には組合員による作成は正解であった。ビジョン作成過程で組合員の意見を聞く機会もあったが、異口同音に、商売は厳しい、廃業したい、人は歩いては居ない、夜は真っ暗、子供に継がすことはできない、など悲観的な意見が圧倒的。ではどうすればよいか聞いた。すると、何かしないと、このママでは終われない、という意見もあった。それならどうするか。矢張り、庄川地域は観光しかない、という処へ持って行きたかった。そのような談義を経てこの流れになった。ホテルや旅館の繁栄ばかりでなく、これらが栄えると庄川地域全体が潤うことを仲間全体（組合員）で進めて行こうではないか。個人の繁栄ではなく庄川地域全体の活性化という問題。2年、3年先のことを考えるには会議での生産的議論も重要。このことを理解してもらうのに時間もかかった。その後組合員は、徐々に庄川地域の活性化を未来志向で関心を持って頂くことになった。

問題はこの冊子のビジョンを画餅に終わらせないこと。推進体制は短期、中期、長期に分け、分掌毎に担当者を決めた。これまで2～3回の会議。やる気のある人を取り込み、商工会青年部も事業に加わった。とりあえず短期の担当者が決定。なかには自ら立候補する元気な方も居た。会議では次回までの課題を与えて、次回には報告を。大項目には知名度アップ、地域資源の発掘、おもてなしの心の向上、国際観光の推進などがあり、それぞれが小項目に分かれてくる。今後具体的な実践項目が出る。この場合、強固な事務局体制が肝要となる。今は庄川の商工会が担当。いずれは我々がやらねばならない。この実施のコアとして事務局が大きな課題として押（の）し掛かかってきた。今の案は指定管理の水公園に事務局を置き事務に長けた人を商工会と分担して採用できないか、と模索。被雇用者のメボシも付いた。事務局新設問題はビジョン実施と並行して進める。項目毎の分科会が動けばビジョンの実際はスタート。

来年度短期事業の目玉は観光アプリの新規作成。スマホは数年後、殆どの方が所持者となる。スマホではアプリは無料でダウンロードできる。庄川アプリを検索すると庄川地域の全てが分かるというもの。これに長

けた貴重な方も居られる。作成はこれの方をお願いするが、情報収集は大変な作業。的を絞ったアプリを予定。例えば金屋石について。ビジョン冊子の表紙はその採掘場から撮ったスナップで、庄川地域でも珍しいアングルのフォト。若い会員が10月に舟を出して対岸まで行き、採掘場まで登った。金屋石にも深い歴史があり、重要な観光資源の1つ。県内の石仏、民家の基礎石や金沢城の配管にも使われた。会員の宮窪君が徹底的に調査し金沢まで足を運び、尾山神社と金沢城のあたりに、その配管が飾ってあったという。ところがその看板には材料の石が金屋石ということが一言も書かれていない。その金沢の看板が老朽化し、たまたま倒れているのを見た宮窪君がすかさず担当者に寄付を申し出て、金屋石であることを記載することの同意を取り付けて来た。今度の4月18日に辰巳用水のお祭りがあり、その時に金屋石のことも書いた新調看板を寄付することになった。これを契機として金沢との交流が始まることを期待している。金屋石は庄川から舟で富山湾に出て金沢に運ばれた。金沢城の石の配管工事に庄川から石工が働きに出ていたが、配管工事終了後は、石工による毒注入防止のため全てが殺されたという悲しい物語も分かった。宮窪君が県内の解体業を通して民家に使われる金屋石の収集・保存に乗り出した。彼は、金屋石を収集して美術作家に何か作ってもらうという案も考えているようだ。他には組合便りの発行など。地域の資源を発掘して「観光資源」にまで高めること。それらをアプリに載せようと計画中である。スタンダードな素材も含め、特に地域特化した素材、例えば金屋石、千光寺、増山城など庄川右岸に拘るなども考えている。この案については市長さんからも良い感触を得ている。

地域のおもてなしの心について。われわれ関係者だけがその心を持っているのではなく、庄川地域住民全体に広げたい。そのためにもビジョンに対する住民理解のための情報発信も考えている。他にガイドも重要。これまでボランティアガイドも聞くが、当てにならない。実のある有料ガイドとその育成もビジョンの中に入れた。組合員や従業員のおもてなしの心の持ち方の講座も考えている。

庄川地域の観光客は、宿泊も入れて平成9年までは年間36万人くらい。このデータの取り方は難しいが、平成23年には17万人まで減り、約半減という現状。宇奈月も半減とか。人口減や旅行形態の変化もあろう。団体旅行から個人旅行への変化である。部屋稼働率はさほど落ちていないことが、その証左となろう。でも観光客減は確実。遊び方が多様化してきたことがその背景にある。最新のデータでは、宿泊施設の利用者は17万人、水公園で13万人、計約30万人。これを5年計画の定量目標として1割増しの33万人を掲げた。定性目標としては全国各地からの観光客による庄川地域の賑わい創出と観光客の満足度向上を掲げた。全国の写真マニアの人、細工石に興味のある方、大仏に関心のある人などオタク族也大歓迎。庄川にしかない観光資源の深堀が肝要と思っている。

庄川温泉郷の全てが宿泊提供しても1000人はムリ。1日に一度に2000人や3000人来られても提供はムリという規模。そう考えるとそんなに難しい話ではないと思っている。以上。